

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

九月一日。

十七波さんは毎日忙しそうだ。陶房の掃除、修理、いろいろな手づき、そして家探し。今日から二学期がはじまる。

「何かさあ、この制服あんまり似合っていない？」

「かわいいわよ。三つ編みによく似合ってる」

「三つ編みが似合わないセーラー服なんてないよ」

「あ、そっか！ 大丈夫よ、いってらっしゃい」(何が大丈夫なのか……)

私は自転車にまたがり、ペダルをこがなくても猛スピードが出る急な坂道を、空気を切るように下った。今朝は、たくさんの風鈴や打楽器をいっせいに鳴らしたようによく虫が鳴いている。引越してきたときよりも、虫の音が風流な音に変わり、秋を感じさせる。

夏がもうすぐ終わる。春の入学式ときは、A 違う学校で二学期を迎えることになるなんて想像もしていなかった。それを思えば、私はこの夏でずいぶんいろんな運命を受け入れた。

千秋さんの退社、離婚、引越、友だちとの別れ、能登、十七波さんとの二人の生活……。まだあったような気がする。

「まず教室に入ったら名前を紹介するから、それからみんなに挨拶をしてください」

担任の大西先生が廊下を歩きながら言った。

眼鏡の向こうの二重の目が、魚のようにぎょろりと潤んでいる。先生も今年教師になったばかりの新任はやほだというけれど、たたずまいはどう見ても三十代半ばくらいに見える。

廊下を歩いていると、窓から生徒の笑った顔がよきによき覗いた。みんな目が合うと引込んで、また出て、まるでモグラ叩きのようだ。どんな子なのかと期待されていると思うと、がっかりさせるのが目に見えていて、① 気持ちも顔もだんだん下向きになる。

一年二組の教室の前。ざわざわした気配があふれ出ていた教室は、先生が扉を開けた瞬間に「しん」となった。みんなIをひそめて私だけを見ている。先生が名前を紹介しても「しーん」としたままだった。

「富士乃波木です。よろしく願います」

明るくいきいたのに、低く小さな声しか出ない。

「じゃあ、あの席に。紙谷！」

「はい！」と、小柄で目の大きな女の子が手を挙げた。私はうなずいて彼女の隣の空いている席に向かった。全身で緊張している。今だけは、おながが鳴りませんように。育ち盛りのせいか最近の私は常におながが空いているのだ。席についたあとは、黒板と先生だけをB見た。静かな教室で、誰よりも「しーん」だったのは、私かもしれない。息さえも、静かに吸っていた。「音無し」子だ。みんなそう思っただろう。

休み時間になると、少しずつ机のまわりに人が集まった。教室の外にも人が集まり、私を見て「ああ」と言うように口を開けている。私は古い制服とか、かわいくない筆箱とかをどう思われるのか気にしていたけれど、みんなは、意外なところに関心を持っていた。

「標準語や。アナウンサーみたいねえ」(ア、アナウンサー!?)

「都会って、かわいい子ばかりねえろ？」(そんなわけないよ……)

「乃波木ってすごい名前やね。みんな下駄箱見て読めんかってんよ。富士で切るんけ、富士乃で切るんけって」(やっぱり……)

「前の学校では、友だちになんて呼ばれたっか？」(のはちゃんとか……)

「富士さんて、すごい都会から来てんろ？」(兵庫だから東京ほどじゃないけど……)

「すごい頭よさそうな顔してる。どうしよ、うちまた順位が下るうえ」(そんな心配いらないから……)

「お母さん陶芸家ねえろ？ いじ、かっこいじ。うちなんて農家やよ」(農家！ すこい……)

「おさげ似合うね！ 真ん中できれいに分かれとるう」(頭の形が平面的だからまっすぐ分けやすいの……)

「ここ田舎やし、びっくりしたやろう」(毎日びっくりしてます……)

「本とかたくさん読んどろそう」(今はぜんぜん読んでないです……)

「うん」「うん」でしか答えられなくても、いい風にしか見えないようだった。

^{*} 芦屋時代の私は、学校ではあまりいい風には見られていなかった。

「みんな塾で先に習っているから知っているよね？」という前提で進められてゆくハイスピードの授業に、一人だけ塾に行っていない私はついて行くことができず、

IIをひねるだけだった。そんな私の足手まといぶりは、低学年の頃から保護者の間でも問題になっていた。

「塾に行っていないの乃波木さんだけで、授業が他のクラスより遅れてしまうんですよ」

「しかし、乃波木さん一人のためにクラス全員が遅れるというのは……」

先生と十七波さんのそんなやりとりも、きっとここではいらぬはずだ。

「わからん」と、堂々という男子は、当然という顔で先生を見ている。

「どっからわからん？」

「最初っからわからん！ どうっ」

「どうっ」は、能登弁というか男子の造語というか、訳すと「なんちゃって（笑）」みたいなことだ。わからないことを笑えるなんて、なんてのびのびしたところなんだろう。そう思うと、私がここへ来たのはとても自然な流れだったようにさえ思えてくる。

国語の授業でも方言のままで、本読みときのイントネーションは先生もおかしなものになっていて、何だかほっと息が抜ける。

それにしても、みんなはとにかく都会にポジティブなイメージを持っていて、転校生の私をたくさん「いーじー」と言ってる。やんでくれる。「いーじー」とは訳して「いいね！」という意味だ。響きは覚えたての英単語「easy」に似ている。簡単とか、気楽にとか、呑気（のんき）なという意味のeasy。easyのアクセントは頭の「イ」のところだけれど、みんなのいーじーは後ろの「じー」のところについている。そして変形もする。先生くらしいの大人になると「いいがいねえ」とか「いいじゃー」「いいがいやー」と言う。同じ石川県でも、みんなの中では能登は田舎、金沢（かいは）は都会という解釈（かいしゃく）があって、その金沢よりも都会から来たとすると、いーじーの嵐（あらし）だった。

（中略）

転校生は当然ながら、授業の引き継ぎができていない。それゆえ全ての教科で何かと順応性が求められる。二学期早々にあった学力テストでは、担任の大西先生から「習ってないところもあるだろうから、点数は気にしないで受けてください」と言われて受けたところ、散々な結果だった。数学なんて三十点だった。成績に反映されないとはいえ、答案を返すときの大西先生の目は「おいおい、大丈夫か」というような笑みを含んでいて、一気に心もとなくなった。

勉強に限らず学校行事もしかりで、何の練習も心の準備もできないまま、本番がやって来る。初めての体育のときには、来週は全校水泳大会ですと言われ「富士さん平泳ぎできるけ？」と先生に尋ねられた。はいと答えると、私の種目は平泳ぎになった。平泳ぎの選手が圧倒的に少ないのだそう。それから一度も練習もできないまま、当日を迎えた。最後に泳いだのは、去年の夏休みに友だちと行ったプールだったから、プールを見るのも久しぶりだ。会場は村の体育館にあるプールで、学校から歩いて十五分ほど坂を下ったところにあった。

乃波木『いーじー大波小波』より（一部、改変があります。）

* 陶房……陶芸家が作品作りをするための住まい、部屋。

* 能登……石川県の能登半島地方。

* 芦屋……兵庫県南東部、神戸市のとりに位置する都市。

問一 A、B に最も適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア いっせいに イ じっと ウ きっと エ まさか

問二 部①「気持ちも顔もだんだん下向きになる」とありますが、そのようになってしまった理由を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア これといった長所もなくて自信がなかったから。
イ 新しい学校が気に入らなかったから。
ウ じろじろと見られて気分が悪かったから。
エ みんなに注目されてはすかしかったから。

問三 I、II に適する語を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問四 部②「足手まとい」、⑤「心もとなく」の意味として最も適するものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

②「足手まとい」	ア 気ままなこと。 イ じゃまになること。 ウ ひどい仕打ちを受けること。 エ くやしがること。	⑤「心もとなく」	ア たよりなく イ もどかしく ウ いらだたく エ 意志が弱く
----------	---	----------	--

問五 部③「私がここへ来たのはとても自然な流れだったようにさえ思えてくる」とありますが、そのように思えたのはなぜでしょうか。解答らんに適切な語句を補い、わかりやすく説明しなさい。

問六 部④「いーじーの嵐」とは、どのような出来事に対して使われたことばですか。次の中から最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア『私』の性格がのんきであることをからかわれたこと。
イ『私』がほとんどしゃべらないので心配されたこと。
ウ『私』が都会に暮らしていたのでうらやましがられたこと。
エ『私』の母親が陶芸家であることをばかにされたこと。

問七 部⑥「しかり」は『そのとおり』という意味です。ここで「しかり」が指し示している部分を、文中から十字以内で抜き出しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

農業には、自然を破壊するという一面と、自然を創り出すという一面とがある。

世界の農業に目を向けたとき、農業は間違いなく自然の破壊者として見なされることが多い。

一つは、農地の開発である。

農業を行うためには、農地が必要となる。そのため、森林を伐採して、農地の拡大が行われている。

A

、大規模な農地の開発が行われているにもかかわらず、世界の農地面積は増えていない。これは、どうしてなのだろうか。

じつは、農業を続けることによって土壌が荒廃し、作物の栽培ができなくなっているのである。たとえば、農地で作物を栽培すれば、作物が土の中の養分を吸収する。そのため、土の中の栄養分は失われて、やせた土地になってしまふのである。もちろん、作物を栽培するためには肥料を施与するが、化学肥料で補える栄養素は限られている。こうして、やせて植物が育たなくなった土は、風や雨水で流出してしまふ。じつは、現在では、世界の農地の四〇％で、このような土壌浸食が問題になっている。特に、巨大な食糧生産大国であるアメリカでは七五％もの農地で土壌浸食が起きていると言うから、深刻である。

土は無限にあるわけではない。土は有機物が分解することによって作られる。

たった一センチメートルの深さの表土が生成されるのに、およそ二〇〇〜三〇〇年かかると言われている。

B

、作物を栽培する三〇センチメートルの深さの土を作るためには、六〇〇〇〜九〇〇〇年という途方もない歳月を要するのである。こうして作られた表土が、今、見る見る失われているのだ。

もちろん、やせた土にならないように、人間は肥料を撒く。しかし、その肥料もまた、砂漠化の原因になっている。

作物を栽培するために農地に水を撒くと、土に沁み込んだ水に土の中のミネラルなどの栄養分が溶け出す。日光に温められると土壌表面の水は蒸発し、栄養分を含んだ土の中の水は地表面に上がっていく。

C

、水が蒸発してしまふとミネラルなどの栄養分だけが、土壌表面に残ってしまふのである。

こうして、土壌表面に栄養分は蓄積して、濃度を高めていく。作物を育てるのに、栄養分は必要であるが、適量がある。あまりに高濃度になると、逆に植物に害を与えてしまふ。こうして、土壌表面に蓄積されたミネラルなどによって、土地は植物が育たない環境になる。そして、ついには砂漠と化していくのである。この現象は、「塩類集積」と呼ばれている。

「ア」

古代に繁栄を遂げたメソポタミア文明やエジプト文明は、この塩類集積によって滅亡したとされている。

I

は環境を破壊し、そしてその環境破壊は、

Ⅱ を減らすほどの力を持っているのだ。「イ」

科学が進歩した現在でも状況は何一つ変わっていない。農地の塩類集積は大きな問題となっている。今でも、農業による地力の低下や塩類集積によって、一年間に五〇〇〜六〇〇ヘクタールもの農地が砂漠と化している。驚くことに、これは日本全体の農地面積よりも大きな面積である。今や環境破壊は、一地域の問題ではなく、地球規模の問題である。「ウ」

さらに近年では、水資源の不足も指摘されている。

農業は、植物を栽培するために、大量の水を必要とする。

水の惑星と言われる地球ではあるが、その多くが海水や地下水であり、実際にわれわれが利用できる水資源は、わずか〇・三％にすぎない。その限られた水の、じつに約三分の二が農業用水として利用されている。そして、農業の発達と拡大が、地球規模の水不足を招いているのである。

中国大陸を流れる黄河は全長五五〇〇キロメートルにも及ぶ世界有数の大河である。しかし、農業用水として水を使いすぎたことによって、下流部では水がなくなる断水が起きていると言う。また、ロシアのアラル海は、かつて世界で四番目に大きい湖として知られていた。ところが農業用水として水を利用するようになってから、アラル海は見る見る小さくなり、ほぼ消滅してしまふ事態にある。

このように農地の開発や、地力の低下、塩類集積、水資源の不足などによって、農業は環境を破壊しているのだ。

ところが日本で暮らしていると、ここで紹介したような環境破壊は、どうもピンとこない。それは、^③日本の農業が田んぼを中心に行われているからなのである。

稲垣栄洋『イネという不思議な植物』より（一部、改変があります。）

* 施与……恵みあたえること。

* 有機物……生物を形づくっている物質。

問一 — A — C に最も適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ そして ウ さて エ ところで オ つまり

問二 — 部①「世界の農地面積は増えていない」とありますが、その理由を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 作物を栽培するための化学肥料が足りないから。

イ 巨大な食糧生産国であるアメリカに自然災害が多いから。

ウ 作物を栽培するための農地を準備するまでに時間をかけすぎるから。

エ 作物を栽培し続けると土の栄養分が失われるから。

問三 — 部②「その肥料もまた、砂漠化の原因になっている」とありますが、その理由を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 作物を栽培するために水をまくと、土の中の肥料が失われるから。

イ 地表面が日光に温められると、土の中の水と肥料がともに蒸発するから。

ウ たくさんの作物を効率よく栽培しようとして、高濃度の肥料をまくから。

エ 地表面に含まれる肥料が多すぎると、作物に悪い作用があるから。

問四 — I ・ II には、ア 農業、イ 文明 のいずれかの語が入ります。適する語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

問五 次の文は文中からぬけ落ちてしまった一文です。文意が通るよう元にもどすためには、文中「ア」「ウ」のいずれに入れるのが良いでしょうか。最も適する場所を選び、記号で答えなさい。

二二世紀を生きる私たちもまた、文明の危機にさらされているのである。

問六 — 部③「日本の農業が田んぼを中心に行われているからなのである」とありますが、なぜ日本の田は環境を破壊しないのでしょうか。本文の「塩類集積」という点から考えられる理由を説明しなさい。

問七 本文最初の——部「農業には、自然を破壊するという一面と、自然を創り出すという一面とがある」という一文が、本文全体の中で果たしている役割について説明したものとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 農業は自然を破壊する面もあるが、自然を創り出す面のほうが強いということを示そうとしている。

イ 農業は自然を破壊する面が強いが、日本の農業には自然を創り出す面もあることを示そうとしている。

ウ 農業は破壊と創造を繰り返しながら、世界的に発展してきたことを示そうとしている。

エ 農業の自然破壊を解決するために、たくさんの努力が重ねられてきたことを示そうとしている。

三 次の1～5の□に適する語を後のア～クからひとつずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 品物の良し悪しを見分けることにかけては目が□。
- 2 あまりの明るさに、たおれそうになるほど目が□。
- 3 価値のある本物にばかり囲まれていると目が□。
- 4 ベッドの中で本を読むと目が□のでねむれなくなる。
- 5 目が□のような色とりどりの花。

ア くらむ イ さえる ウ 覚める エ すわる オ 肥える カ 合う キ 出る ク 利く

四 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 選手の力走にフルい立つ。
- 2 美しい音をカナでる。
- 3 ショウボウシヨを見学する。
- 4 実力をハッキする。
- 5 ムチュウで本を読む。

受験番号

*評点

一 問一

A	
B	

問二

--

問三

I	
II	

問四

②	
⑤	

問五

転校前の学校では
しかし、転校後の学校では
から。

問六

--

問七

二 問一

A	
B	
C	

問二

--

問三

--

問四

I	
II	

問五

--

問六

--

問七

--

三

1	
2	
3	
4	
5	

四

1	
2	
3	
4	
5	

*